

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年十二月度 入選句（投稿総数三千九十三句・小中学投句数二千五百九十句）

特選

つながったなかよしかぞくおいもほり 大垣市 水谷 遥希(小三) 選者 相馬 みさ子

畑でさつまいも掘りをした時の句ですね。大きいも小さいもいくつかつながつて出てきたさつまいもの様子を「なかよしかぞく」と表現したところが楽しいですね。作者の優しくあたたかいまなざしが見えてくるようです。きっと作者の家族もなかよし家族だからこそ、こんな表現が生まれるのでしょう。いも掘りの楽しい様子が想像される作品です。

ピカピカと明かりがおどる冬の町 大垣市 小林 りん子(小三)

「明かりがおどる」に冬の町の様子がよく表現されています。冬になるとあちこちにイルミネーションの明かりがきらめいています。冬の町は、どこか寂しさをイメージしますが「明かりがおどる」で明るく、にぎやかであったかい冬の町になりました。リズムもよく、作者の豊かな感性を感じる作品です。

ザクザクとしも柱だねおどつちやう 大垣市 廣瀬 光雅(小三)

この句は、「おどつちやう」に作者の気持ちがよく表現されています。しも柱は、ふむとザクザクと音がして楽しくなりますね。作者の「おどつちやう」という気持ちは、よくわかります。楽しく心地よいしも柱、自然におどってしまう作者の姿が浮かんできます。素直な表現にひきつけられた作品です。

秀逸

どんぐりのコマでたいけつぼくのかち	大垣市	室 琉希也(小一)
うんどう会やっぱり母さん声でかい	大垣市	古橋 隆之介(小三)
見上げればあと三まいだ木の葉たち	大垣市	小久保 友愛(小四)
手ぶくろを選んで学校さあ行こう	大垣市	平田 ひなの(小五)
ピザやいてチーズこんがり秋の色	大垣市	山田 ゆず(小二)
夕暮れの空を彩る赤とんぼ	大垣市	山本 創太(中一)
葉が落ちて身震いしてる大いちよう	美濃加茂市	佐光 亮哉(中三)
干柿が風にふかれてちぢこまる	大垣市	影山 莉乃(小四)
おもちゃくお母さんよりおこってる	大垣市	炭竈 凜奈(小四)
母の足くつした二じゅう冬がきた	大垣市	高木 愛加(小五)

入選

ヒガン花静かなはかにおくり物 大垣市 深尾 結月(小五)
 食たくをえがおにさせるくりごはん 大垣市 愛甲 真緒(小五)
 通学路 辺り 一面 赤蜻蛉 大垣市 岩田 千寛(小五)
 いもうとのかおより大きなさつまいも 大垣市 まつもと こうし(小二)
 おいもほりひつくりがえりいもとんだ 大垣市 高木 果歩(小三)
 このはちるはっぱのじゅうたんかんせいだ 市川 まい(小二)
 おねえちゃんとおちばをひろいおままごと 大垣市 のがみ さき(小二)
 運動会 ついに手にしたこの一位 大垣市 大橋 悠矢(中二)
 通学路 見渡す 限り 稲の海 大垣市 河原 智華(中二)
 金木犀 私をさそういい香り 大垣市 大橋 果乃(中二)

入選

冬の夜君と探したオリオン座 美濃加茂市 松原 若菜(中二)
 三・二・一 みんなで数えてとしをこす 美濃加茂市 熊崎 玲葉菜(中三)
 かれはたち風にあかれておにごっこ 大垣市 あべ えみゆ(小二)
 あさおきてストーブのまえぼくのせき 大垣市 おおつか るい(小二)
 ことしこそサンタを見るぞねたふりで 大垣市 加藤 心羽(小三)
 じぶんでねつくったマフラーきもちいい 大垣市 棚橋 万桜(小四)
 寒空にイルミネーションかがやくよ 大垣市 中村 滢斗(小四)
 登校はんあいさつすると白いいき 大垣市 川瀬 未祐(小四)
 ねんまつもちかくなつたよおおうりだし 大垣市 赤お 世楽(小四)
 大そうじ次から次と思いい出が 大垣市 小林 昂汰(小五)

選者吟

メモ書きを一つずつ消す年の暮
 みさ子